

平成29年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

関市地域公共交通活性化協議会

平成21年3月21日設置

フィーダー系統 平成28年6月22日 確保維持計画策定

地域公共交通ネットワークのイメージ図

関市は岐阜県の中心部に位置し、V字型で472.33km²の広大な地域で公共交通は大部分をバスで担っているが長良川鉄道が市の中心部を南北に走っている。

平成21年3月に策定した地域公共総合連携計画により、市内バス路線網の再編及び実証運行をしてきたが新たなまちづくり施策や公共交通の課題を反映するため、「関市地域公共交通網形成計画」を平成29年3月（平成29年度～平成33年度）に策定した。

網計画で目指す公共交通の将来像

ずっと暮らし続けられる関市を支える 地域公共交通ネットワークの構築

方針1

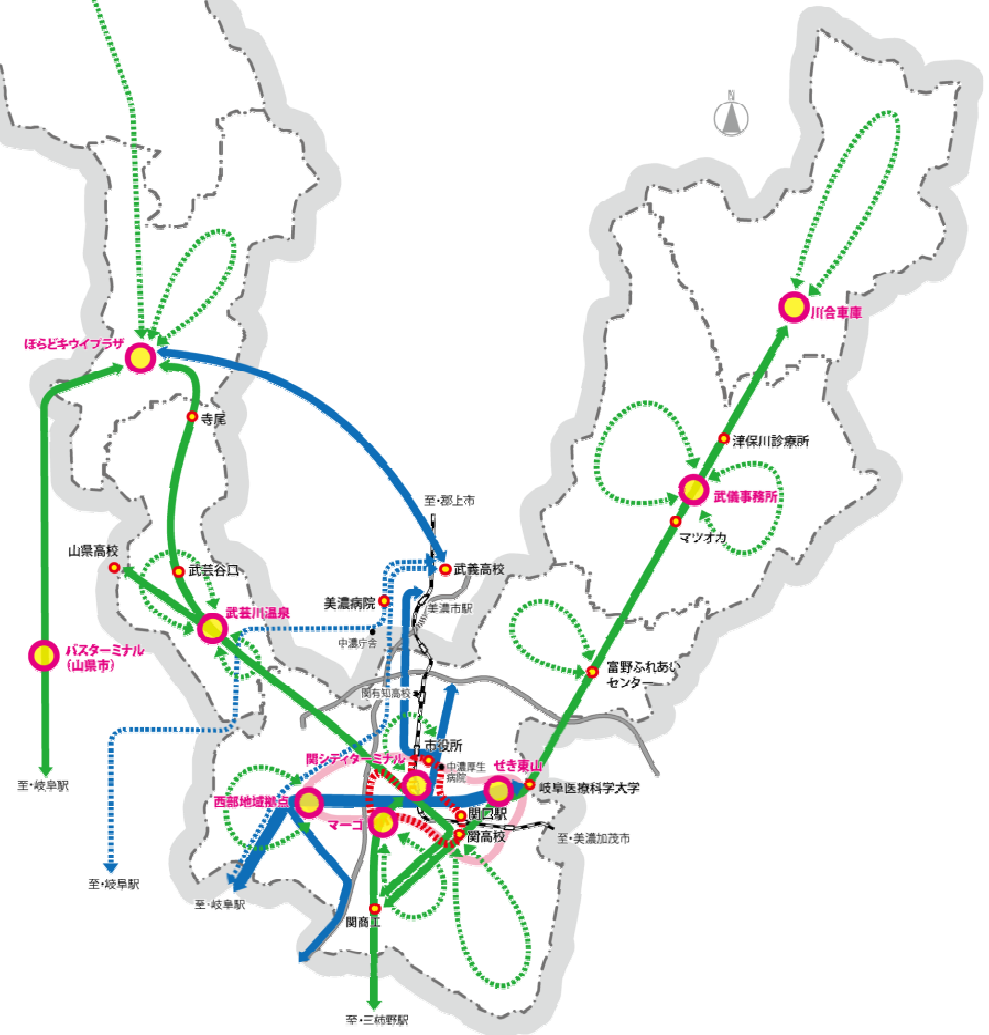
高校生が公共交通で通学できるサービスの提供

方針2

高齢者が公共交通で日常的な生活ができるサービスの提供

方針3

より多くの人を使いやすい公共交通サービスの提供



当市では、網形成計画の方針を実現するため、4つの目標に応じた計画期間に達成すべき評価指標を以下のように設定している。

目 標	評価指標	平成27年度 (基準年)	平成33年度 (目標年)
【目標1】 地域住民のニーズを踏まえ、まちづくりと連携した公共交通ネットワークの形成	市街地※1における 1日あたりのバス乗降人数(人/日) ※1：都市機能誘導区域及び、居住誘導区域	1,300 人/日	1,300 人/日 以上
【目標2】 気軽に利用でき持続可能な公共交通の実現	公共交通※2の維持に必要な市民1人あたりの年間負担額(円/年) ※2：長良川鉄道、関シティバス、自主運行バス、乗合デマンドタクシー	3,900 円/年	3,900 円/年 以下
【目標3】 わかりやすく乗って楽しい公共交通づくり	人口1人あたりのすべての公共交通※3の年間利用回数(回/人)注1 ※3：鉄道、バス、タクシー	12.0 回/人	12.0 回/人 以上
【目標4】 様々な主体の連携による公共交通の維持・改善	人口※31人あたりの地域内バスの年間利用回数(回/人) ※3：洞戸、板取、武芸川、武儀、上之保	5.0 回/人	5.0 回/人 以上
【目標5】 市民アンケートの「満足」が「不満」を上回る注2	市民の満足度向上(%)	満足 11.2% 不満 50.8%	満足 11.2% 以上 不満 50.8% 以下

注1 鉄道及び市外をまたぐバス路線については、路線全体利用者の距離按分やOD調査結果に基づき市民の乗車人数を算定

注2 網形成計画の中では、【目標5】市民満足度は評価指標としていないが、追加して評価を行っている。

【目標2】

2-3 学生通学支援補助制度の導入（H29.4～）

高速名古屋線の通学定期乗車券購入について1月当たり5,000円補助

11月までの実績 ⇒ 申請者数32人 補助金額740,000円

【目標3】

3-4 イベント装飾バス・ラッピングバスの実施

高校生が主体でまちづくり事業を企画・運営する団体VSプロジェクトが普段あまりバスに乗らない若年層に対してシティバスを周知する目的で内装をハロウィン仕様に装飾するイベントを開催。10月21日から10月31日まで市内の各路線を装飾したバスが運行した。



【目標4】

4-1 自家用有償運送事業の運営体制の構築

隣接地域間における相互乗り入れや、有償化に向けた組織体制の構築をするために、運行経費の統一や具体的な協議を行った。東ウィングについては、平成30年4月1日に統合予定している。

自己評価

関市地域公共交通活性化協議会 平成29年12月25日(月)

評価指標	目標値	実績値	達成状況
【指標①】市街地における1日あたりのバス乗降人数(人/日)	1,300人/日以上	1,322人/日	達成
【指標②】公共交通の維持に必要な市民1人あたりの年間負担額(円/年)	3,900円/年以下	4,345円/年	未達成
【指標③】人口1人あたりのすべての公共交通の年間利用回数(回/人)	12.0回/人以上	12.8回/人	達成
【指標④】人口1人あたりの地域内バスの年間利用回数(回/人)	5.0回/人以上	4.8回/人	未達成
【指標⑤】市民の満足度向上(%)	満足 11.2%以上 不満足 50.8%以下	満足 19.5% 不満足 46.6%	達成

路線別評価

路線	①利用者数(人/日)			②1便あたり利用者数(人/便)			③利用者1人あたりの補助額(円/人)			④収支率(参考)		全体評価		
	基準値	H29	評価	基準値	H29	評価	基準値	H29	評価	基準値	H29			
市幹線	関板取線	138.0	151.7	達成 ↓	10.0	12.7	達成 ↓	1,000	739	達成 ↑	15.0%	13.7%	A	
	関上之保線	122.0	106.4	未達成 ↓	9.0	6.4	未達成 ↓		1,506	未達成 ↑		7.6%	C	
関地域幹線系	買い物循環線	62.0	114.2	達成 ↑	5.0	7.7	達成 ↑		433	達成 ↑		15.7%	A	
	市街地病院循環線	50.0	23.4	未達成 ↓	4.0	2.0	未達成 ↓		1,458	未達成 ↑		5.6%	C	
関地域支線系	小金田線	50.0	41.9	未達成 ↑	8.0	8.5	達成 ↓		757	達成 ↑		9.4%	B	
	千疋線	43.0	22.4	未達成 ↑	7.0	4.5	未達成 ↓		994	達成 ↓		8.1%	B	
関地域デマンド系	富野線	設定しない	3.2	- ↑	2.0	1.4	未達成 ↑	設定しない	4,245	- ↓	設定しない	3.2%	B	
	田原線		3.8	- ↑	3.0	1.8	未達成 ↑		2,815	- ↓		3.3%	B	
	迫間線		10.9	- ↑	2.0	2.4	達成 ↑		2,063	- ↓		3.2%	A	
	向山線		13.8	- ↑	3.0	3.0	達成 →		2,200	- ↓		3.3%	A	
関市デマンド乗合タクシー	下有知地区		9.6	- →	1.5	1.5	達成 →		1,510	- ↑		15.0%	15.7%	A
	瀬尻・広見地区		2.5	- ↓	1.5	1.2	未達成 ↑		1,776	- ↓			12.3%	B

考察と今後の方針

【指標①、⑤】達成 ... 市街地を通る路線(小金田線)の増便の結果、利用者数が増加し、満足度が上昇。

【指標③、⑤】達成 ... 通学定期券補助(H29.4~)、イベント装飾バス、観光列車「ながら」運行開始(H28.4~)



路線別評価に応じて改善・利用促進の継続

【指標②、④】未達成 ... 地域内バスにかかる経費の増加。武儀・上之保地域の利用者数の減少。



運営形態の見直し

課題 路線別評価に応じて改善

市街地病院循環線 利用者数：前年比2,838人減 利用者1人あたりの補助額：259円増

➡ 同じく市街地を走る買い物循環線への移行を検討

関上之保線 利用者数：前年比3,077人減 利用者1人あたりの補助額：155円増

➡ 乗降調査により、利用の少ない部分を減便・短縮する一方、その部分は統合予定の地域内バスでカバー

課題 利用促進の継続

学生通学支援補助（2-3）

高速名古屋線通学定期乗車券補助（H29.4～）につづいて、次は、長良川鉄道を利用して通学する市内在住の高校生を対象に、関シティバス料金を割引する補助制度を導入する。（H30.4～予定）

(1カ月分)
 関上之保線 武儀事務所 ↔ 長良川鉄道 関下有知
 現状 8,000 + 8,060 = 16,060円
 学生通学支援補助 8,060円
 ※長良川鉄道分のみ負担とする。

課題 地域内バスの運営形態の見直し

地域内バス運行地域の中でも、東ウイング（武儀・上之保地域）の利用者数減少・負担増加が顕著。

利用者数の推移 (単位:人、%)

	H27年度	H28年度	増減率
東ウイング	18,129	13,958	▲23.0
全体	72,091	67,661	▲6.1

負担額の推移 (単位:千円、%)

	H27年度	H28年度	増減率
東ウイング	23.1	24.5	6.1
全体	75.6	78.7	4.1

東ウイング（武儀・上之保地域）の統合

- ① 運営事業者を一つに統合
- ② 定時定路線から一部をデマンド方式に変更

統合のメリット

- ◎ 地域間（武儀↔上之保）の相互乗り入れが可能となり、利用者の増加が見込める。
- ◎ 運転手や所有する車両の増加により、車の手配や運行計画が緩和される。
- ◎ デマンド方式の導入により、武儀地区は週2回→平日毎日運行になる。

平成29年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（経緯）

関市地域公共交通活性化協議会

平成21年3月21日設置

フィーダー系統 平成28年6月22日 確保維持計画策定

直近の第三者評価委員会 における事業評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
循環線は大きな差があるので、利用者利便の観点から検証すること	網形成計画の中で、市街地路線については、買い物循環線を該当バス路線に位置づけた。	買い物循環線をより利便性の高い移動サービスを確保するため1時間に1本以上の運行とする。
市内のフィーダー系統について、利用しやすい路線・ダイヤの構築と利用促進の取組を実施すること	地域委員会やおしゃべりカフェで公共交通をテーマに地域住民の意見を伺った。小中学生シティバスの乗車体験事業や在住外国人のバス乗り方講座等利用促進に努めた。	引き続き、利用促進に努めるとともに、地域住民の意見を反映した路線・ダイヤの構築を検討する。
利用者の利便向上と効率性の向上を確保した持続可能な新たなネットワークを構築すること	通学の利便性向上のため、新規路線として高校直行便の運行について、保護者へのアンケート調査の実施や運行事業者と隣接する市との協議を行った。	網形成計画を変更し、ニーズを踏まえたネットワークを再度示し、再編実施計画の策定を進める。

1. 関市地域公共交通網形成計画策定

平成29年3月網形成計画を策定し、現状や課題を整理し、方針・目標を定め、目標を達成するための事業を明確化しました。



3. 在住外国人対象のバス乗り方講座の開催

平成29年2月26日(日)に初の試みでバスの乗り方講座を開催。在住外国人の皆さんがもっと便利に生活できるようにと、実際のバスを使って乗車の仕方、料金の支払い方法を学びました。



2. 広報で路線バス日帰り旅行を特集

公共交通を使って、市内の観光スポットを巡るモデルコースを8月の広報で特集にしました。モデルさんに実際にコースを周った感想も記事にしました。



4. 小・中学生関シティバスの乗車体験事業の実施

バスでの移動に慣れ親しみ、公共交通への理解と利用マナーを身につけることを目的に、小学生4年生以上を対象とした「小・中学生関シティバスの乗車体験事業」を実施しました。

